

第5回 総合計画審議会(交流分科会) 議事要旨

日時 平成 22 年 5 月 19 日 (水) 午前 10 時 00 分～12 時 00 分

場所 横須賀市消防局庁舎 4 階災害対策本部室

出席委員 室町泰徳委員(副座長)、伊藤智委員、小野間重雄委員、高瀬順治委員、鳥居里美委員、永田翔吾委員、西原徹委員(以上 7 名)

事務局 横須賀市都市政策研究所 福本課長、小澤主査、檜山主任、山中主任

傍聴者 なし

議事内容

1. 報告事項
2. 審議事項
3. その他

1. 報告事項

(1) 第 4 回総合計画審議会(交流分科会)の議事要旨について
(事務局)

－資料 1 説明

(2) 第 4 回総合計画審議会意見について
(事務局)

－資料 2 説明

(3) 横須賀市基本計画の策定に関する特別委員会(第 1 回～第 3 回)の意見及びその対応
について

(事務局)

－資料 6 説明

(4) 基本計画素案に寄せられた市民意見について
(事務局)

－資料 7 説明

(5) 横須賀市基本計画の策定に関する特別委員会(平成 22 年 5 月 13・14 日開催)について
(事務局)

－資料 8 説明。

(室町副座長)

- ・ 資料について、何かご質問はございますか。

(伊藤委員)

- ・ 資料7は全てホームページに寄せられた質問ですか。

(事務局)

- ・ 意見募集の周知はホームページに掲載していますが、意見の出し方は特定していません。

(室町副座長)

- ・ 資料6と資料8の背景をもう1度説明していただけますか。

(事務局)

- ・ 横須賀市基本計画の策定に関する特別委員会については、昨年9月の市議会の定例会で設置が決定されました。特別委員会が設置された背景には、基本計画が議決事項になったことがあります。具体的な審議は12月から行われています。行政側が提出する資料についてご意見をいただいております。12月、1月、3月は第1次素案について議論いただきました。それらの意見をもとに2次素案を作成しました。今回は2次素案についてご審議いただくわけですが、1次素案からの大きな変更点として、第4章・第5章を詳細に書き換えています。資料6は、特別委員会（第1回～第3回）で出た意見を2次素案にどのように反映したか、対応を示したものです。
- ・ 資料6を5月の13・14日に開催された第4回特別委員会にお示したのですが、その委員会での質疑・応答をまとめたものが資料8です。

2. 審議事項

(室町副座長)

- ・ 次第2の審議事項に入ります。
- ・ 第2回と第3回の審議会では横須賀市基本計画（2011～2021）素案の施策体系「第4章 まちづくり政策」の「1 いきいきとした交流が広がるまち」、「第5章 まちづくりの推進姿勢」の「1 市民協働によるまちづくりの推進」「2 効率的な都市経営の推進」「3 地方分権と広域連携の推進」について、みなさんから多くの意見が出されました。
- ・ 本日と明日は、それらの意見に基づいて作成された2次素案についてご審議いただきます。2次素案は施策内容がより具体的になっていますので、施策についての書きぶりや視点として抜けている点はないか等、具体的な形で意見を出していただければと思います。
- ・ 審議は原則として、大柱順に行います。本日は大柱1「いきいきとした交流が広がるまち」を対象に審議を行い、残りは明日とします。
- ・ 事務局から資料の説明をお願いします。

(事務局)

- ・ 資料3、資料4、資料5、資料9について説明

(室町副座長)

- ・ ただいまの説明の通り、1次素案から大きく変更された感があると思います。改めて資料をご覧いただき、気づいたことや気になること等の具体的なご意見をいただき、内容を深めたいと考えます。
- ・ 資料4の「2次素案の施策案」は、資料3に入っていないように見えますが、最終的には含まれる予定でしょうか。

(事務局)

- ・ 資料3の24頁以降に入っております。

(室町副座長)

- ・ 意見を反映できる機会は今回が最後でしょうか。

(事務局)

- ・ 今回ご議論いただいた結果を踏まえまして、第1章から第3章も含めて全体を見直し、3次素案としてまとめる予定です。それを7月の分科会でご覧いただくこととなります。

(室町副座長)

- ・ 明日ともう1回ぐらいは意見を述べ、反映する機会があるということですね。
- ・ まずは「1 いきいきとした交流が広がるまち」の「(1) 人を呼び込む環境づくり」についてご意見をお願いします。

(永田委員)

- ・ 「① 地域資源を生かした魅力づくり」の「エ 集客拠点の魅力を向上するため、PRイベントの実施やアクセス、周遊環境の整備などを推進します。」は当分科会が出た意見により修正された部分だと思えますが、「周遊環境の整備」という表現では横須賀の中だけを回るものと誤解される恐れがあるため、「周辺地域を含めた周遊環境の整備」とした方がよいと思います。
- ・ 横須賀だけでは人を呼び込むことは難しいと思います。三浦半島から鎌倉まで含めた一体的な集客を行うことがわかるように書かれていれば、わかりやすいと思います。

(事務局)

- ・ 施策案は各部局で作成していますので、いただいたご意見は各部局に伝え、最終的には企画調整会議において調整します。その際に反映できるようであれば、できる限り反映したいと思います。

(伊藤委員)

- ・ ①ア～エは、横須賀への集客を目指したものだと思うのですが、エの「集客拠点」は具体的にどこを指しているのでしょうか。横須賀を指しているのですか。

(事務局)

- ・ 「集客拠点」という言葉に違和感があるということですか。
- ・ 横須賀の中の観光拠点の魅力をアップし、ネットワーク化したいという内容です。

(伊藤委員)

- ・ 横須賀にあるいろいろな集客拠点ということなのですね。

(永田委員)

- ・ ならば、「市内の集客拠点」とした方がよいと思います。

(事務局)

- ・ 「市内の集客拠点」、もしくは「本市の集客拠点」という表現があると思います。

(室町副座長)

- ・ 主な事業例として「集客拠点アクセス整備事業」が挙げられていますが、具体的な場所はありますか。

(事務局)

- ・ 例えば、東海岸には横須賀中央駅から観音崎に至るまでのいろいろなポイントなど、市内には単発のポイントはありますが、半日、1日、あるいは宿泊して等の長時間の周遊環境があまりありません。そこで、交通事業者や観光事業者と連携して、市内の観光拠点をつなぐ周遊ルートをつくっていかうという事業です。

(室町副座長)

- ・ 今のような説明がなく、2～3行の記載だけではわかりにくいと思います。

(西原委員)

- ・ 具体例がないとわからないと思います。例えば「集客拠点」としては、船が出る猿島等いくつか挙げられると思います。
- ・ バスで横須賀に来ても駐車するスペースがありません。バス駐車場・駐車場の整備も含めて、具体的に書き込んだ方がよいと思います。馬堀海岸に温泉施設を建設していますが、人を呼び込むためには駐車場等も整備しなければならないと思います。③「ウ集客を促進するため、観光ボランティアガイドの活動支援や、観光関連事業者等への支援を行います。」に、観光事業者関連への支援として具体的に書き込んだ方がよいと思います。関東内陸部の海がない地域の人をバスで呼び込むための整備が遅れていることも、書き込んだほうがよいと思います。横須賀のセールスもよいけれど、施設

整備も入れた方がよいと思います。

(事務局)

- ・ 駐車場の整備はご指摘の通り必要で、アクセスの整備として書き込んでいます。
- ・ 基本計画は11年間の施策を示すものなので、整備箇所など具体的な内容は書きにくい面があります。議決事項ですから市民との約束の意味合いが強く、予算の裏づけがないのに、明確な事業まで書き込めるか微妙です。一方で、具体的な内容がないとわかりにくいのも事実です。
- ・ 基本計画の策定と平行して第1期の実施計画も作成しているのですが、実施計画では、いつまでにどこでどの程度実施するのかなど、具体的に記載します。基本計画と合わせて実施計画を見ていただければわかるようにしようと考えています。そうすれば、少なくとも事業名を記載することができ、場合によっては事業名に整備箇所がわかるような表現を入れることもできます。
- ・ このようにして、基本計画の段階では抽象的な表現にとどめたいと考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。その上で、わかりづらい表現等ご指摘いただければ可能な限り取り入れたいと考えます。

(高瀬委員)

- ・ 文言についてですが、「横須賀市」「本市」「市内」等がバラバラに使われています。不要な箇所もあると思いますが、統一されていないのはいかがなものでしょうか。

(事務局)

- ・ ご指摘の通りです。基本的に主語は横須賀市ですが、不要なところは精査したいと思います。

(室町副座長)

- ・ 横須賀市への愛着の部分は「横須賀」という表現を残した方がよいと思います。ケース・バイ・ケースですね。

(高瀬委員)

- ・ 「横須賀に対する愛着」のすぐ後ろに「本市」が並んで使用されています。

(永田委員)

- ・ ①イに関して、何度も行きたくなる観光都市は、モノが優れているだけでなく、そこにいる人も優れていると思います。横須賀に愛着と誇りを持ってもらったら、それを人的資源としてホスピタリティを向上します、ということも盛り込めればよいと思います。それを入れることで、市民へのお願いにもなると思います。昔、生徒会をしていた頃に、僕も頑張るからみなさんも頑張ると言っていました。このような表現を入れてはいかがでしょうか。
- ・ 主な事業例として「よこすか検定の実施」とありますが、こどもから大人まで全部を

対象としているのですか。

(事務局)

- ・ 現在実施している事業は、大人を対象としているはずですが、今回は、こども向けや外国人向けも検討しているようです。

(永田委員)

- ・ 小・中学校で一斉に実施してもよいと思います。上位者には学校で使用できる画材セットや、おもしろそうな理科の実験器具などの役立つ副賞をつけてはどうでしょう。こどもは喜ぶと思います。

(事務局)

- ・ ホスピタリティ、人づくりに関しては、③「エ 交流を支える人材や団体のネットワークづくりや情報交換の機会を提供します」で捉えられると思います。

(永田委員)

- ・ 人づくりでつくった人を生かすという視点で、人を資源として捉えればわかりやすいと思います。

(室町副座長)

- ・ 行で区切られているので各々が独立に見えるけれども、横須賀検定も観光ボランティアとかなり深く関係するのではないのでしょうか。有機的につながっているように見えるよう工夫が必要かも知れません。

(鳥居委員)

- ・ 「④ 定住を促すしかけづくり」のウの「横須賀の暮らしやすさをアピールするため」という表現に疑問を持ちました。私は結婚を機に横須賀市外から移住してきました。移住前の横須賀は、海が広がり平地でおしゃれな街というイメージでしたが、実際には汐入駅から徒歩10分圏内でも細い道を通り最後は階段を上らなければならない場所に住んでいて、イメージにギャップがあります。「暮らしやすさ」の判断基準は難しいと思いますが、「電車、バスの広告や住宅情報誌への掲載」をするなら、この部分の書き方をもう少し変えて、横須賀市独特の地形を生かした生活スタイルの工夫をアピールしてはどうかと思います。

(事務局)

- ・ 横須賀のよさを理解していない人が多いのではないかという考えから、定住を促すためにはよさを積極的にプロモーションしていこうという施策部分なので、「暮らしやすさ」の中身まで詳細に説明することは、施策の中では難しいと思います。
- ・ ただ、アピールする際には、ご意見をいただいたような課題部分を考慮する必要があると感じました。

(鳥居委員)

- ・ そうすると、このアピールとは住民向けなのですか。

(事務局)

- ・ 外の方に対して、横須賀の良さを積極的にプロモーションするものです。
- ・ 外から来た方が疑問を持たれたわけですから、アピールする際には考える必要があるのだと思います。

(室町副座長)

- ・ 市外の方に横須賀に住んでもらいたいが、移住前後のイメージのギャップは当人の責任ですと読みとれるならば、文言を変えた方がよいですね。
- ・ 横須賀市の総合計画なので、既に住んでいる人も暮らしやすさがわかるようにするとよいのではないのでしょうか。

(伊藤委員)

- ・ 細かい部分については、実施計画に落とし込むということでよいでしょうか。

(事務局)

- ・ はい。

(小野間委員)

- ・ 資料4の1頁「② 交流拠点の創出」に「エ 自然とふれあえる交流拠点として、自然の魅力を生かした公園を整備します。」とありますが、4頁「③自然豊かな公園・緑地の整備」にも「イ 豊かな自然とふれあえる場を創出するため、自然の魅力を生かした公園・緑地を整備します。」とあり、内容が重複しています。文言を統一して再掲と表現した方がよいのではないのでしょうか。

(事務局)

- ・ ご指摘の通り重複しています。「1 いきいきとした交流が広がるまち」全体の柱立てが、様々な分野の横串を刺した構成になっているので、どうしても1つの事業に複数の施策目標があり、再掲が出ざるを得ません。ただ、今回は再掲という表現は使わない方針です。
- ・ この部分は確かに似た文言になっています。前回の基本計画にもこの表現がありましたが、ソレイユの丘など大きな公園をつくるイメージでした。今回は交流するような大きな公園のイメージはありませんが、基本計画期間の11年の間に大きな公園をつくることも想定するならば、表現を工夫しなければならないと考えます。

(小野間委員)

- ・ ②のア～カはハード中心の感じがします。地域資源を生かすのであれば、三浦半島は農漁業が盛んなので、朝市や直売所、体験農園などの体験型ソフト事業を入れた方が

よいのではないのでしょうか。

(事務局)

- 1頁の①がソフト中心で、②は「拠点の創出」なのでハード中心のイメージになっています。
- 農漁業を資源として呼び込むしかけにする考えは、5頁の(2)「① 地産地消の推進」の「イ 地産地消の情報を広く発信するため、様々な媒体を活用するとともに、イベント・キャンペーンなどを実施します。」で記載しています。
- ご指摘に合致した事業ですので、再掲があるのならば1頁に記載するところですが、基本的には「2 海と緑を生かした活気あふれるまち」の中で捉えています。

(室町副座長)

- 今回は間に合わないにしろ、次の総合計画の頃には、ホームページ上でクリックすれば関連するものが出るようにできるかもしれませんね。

(伊藤委員)

- 1頁の「① 地域資源を生かした魅力づくり」に「イ 横須賀に対する愛着と誇りを持ってもらうため、本市の歴史的、文化的価値を発信し、認知度を高めます。」とあります。横須賀は観光資源が豊富で名産品もたくさんあるので、「歴史的、文化的」な面に加えて、それらも入れた方がよいと思います。
- これらの施策案は住んでいる方と来客者の両方を対象にしている、という理解でよいのでしょうか。

(事務局)

- ターゲットは来客者です。

(伊藤委員)

- 歴史、文化に加えて観光資源も発信して認知度を高めた方がよいと思います。

(事務局)

- ①「ア 集客人口増加のため、多くの人に選ばれるまちの明確なイメージづくりを行います。」で捉えており、主な事業例に「シティセールスの推進、地域資源を生かした新たな集客資源の開発・PR(名物商品、観光商品)」と記載しています。
- 小野間委員のご指摘も、①ウで「地域資源を生かしたイベントの開催や地域の食材などを生かした魅力づくり」として捉えられています。
- 事業例を見ればわかるけれど、施策の表現が不十分なのだと思います。

(伊藤委員)

- 表に出るのは施策だけではないですか。

(事務局)

- ・ 議決の対象は施策中心ですが、基本計画書になった時点で施策のみではわかりづらいと感じています。事業名と事業内容と、どちらがわかる形にするなど表現上の工夫はあると思います。

(永田委員)

- ・ 「② 交流拠点の創出」で、エに「自然とふれあえる交流拠点として」オに「海を生かした集客」とあるが、河川の整備も入れられないでしょうか。韓国では、川の上の道路をつくったことにより、川なのか下水なのかわからない事態になったため、道路を除去し立体化して、川を再整備し、周囲に緑地や公園を創出した事例があります。横須賀の川も同じように整備できれば、川の周りで遊べる公園ができると思います。
- ・ 横須賀というと海が強調されますが、川で遊べる仕組みづくりもあればと思います。

(事務局)

- ・ 緑・川・海は一連のものですが、人を呼び込むための交流拠点として横須賀市の川がどの程度活用できるかには疑問があります。前田川の遊歩道がありますが、あれは大楠山の一部と捉えられる程度だと思います。
- ・ ご指摘のような親水環境は、市民にとっては身近なものとして整備の必要があると思います。このため、4頁(1)①に「キ 自然景観や生態系に配慮し、やすらぎの場と親水空間を創出するため、河川や海辺の保全を推進します。」と記載しています。

(高瀬委員)

- ・ 2頁「④ 定住を促すしかけづくり」の「しかけ」という言葉は適切なのでしょうか。

(事務局)

- ・ 仕組みでもないですし、検討したいと思います。

(高瀬委員)

- ・ 「定住を促すための魅力づくり」でもよいのではないのでしょうか。

(室町副座長)

- ・ 先ほどのご提案も踏まえ検討してください。
- ・ 議論が1頁目に集中していますので、他の頁で何かありませんか。

(伊藤委員)

- ・ (2)①のアに「インターネット、テレビ、新聞」等の記載があるけれど、交通媒体という表現、専門用語で何というかわかりませんが、それを入れると具体性が出ると思います。JRが「龍馬」で下田をPRしたことにより、下田にお客がたくさん来ているようです。

(事務局)

- ・ 交通媒体とは具体的にどのようなものですか。

(伊藤委員)

- ・ 車内吊りや駅のホームでの広告です。

(永田委員)

- ・ ラッピングバスもあります。東京都ではバスのほとんどで取り入れています。よい、悪いの問題や、京急のコーポレート・アイデンティティの問題もあり、難しいかも知れませんが、横須賀の名所等アピールしたい部分の写真をラッピングしたバスを走らせれば、市外から来た人も行ってみようという気になるのではないのでしょうか。
- ・ 例えば、観音崎行きバスには観音崎の写真がラッピングされているとなれば、そのまま乗って観音崎に行く気になると思います。これも交通広告の1つだと思います。
- ・ (2) ①イに「積極的なセールス」とありますが、セールスという言葉には、こちらが決めたことを一方的に売り込むイメージがあると思います。旅行会社と連携するのであれば、オファーなどの言葉を使うことで、概要を示して中身は一緒に考える姿勢を表現した方がよいと思います。

(事務局)

- ・ これまで行政は旅行会社に売り込むことをしていませんでしたが、これからはシティセールスをするということなので、むしろ「セールス」を使いたいと考えます。
- ・ ラッピングバスについては、かつて京急と連携してhideミュージアムのバスを走らせたり、海の手文化都市の絵を描いて走らせたりしたことがあります。お金がかかるため、交通事業者に協力をいただく必要がありますが、様々な媒体を利用する際の1つの手法として、具体的な事業のご提案として受け止めたいと思います。
- ・ 「交通媒体」という文言を入れてはどうかのご提案でしたが、事業名として「交通事業者タイアップ事業」という記載ならばあります。集客都市プロジェクトの一員である京急にお願いして、ファーストマイホームの大きなポスターを貼らせてもらったこともあります。ただ、書き方として、魅力を発信するための媒体の手法で区切って「インターネット、テレビ、新聞」等と表現していますので、交通事業者に関しては、吊り広告や車内モニターなど様々な手法がありますので、記載は具体的な事業展開の中で検討したいと思います。
- ・ JRに関しては、横須賀線100周年の際に連携して効果がありましたので、次も検討しています。

(室町副座長)

- ・ 定住、集客に関しては、若い市長ということでインパクトもあるので、トップセールスが有効ではないでしょうか。

(小野間委員)

- ・ (1) ③に「エ 交流を支える人材や団体のネットワークづくりや情報交換の機会を提供します。」とありますが、文章が練れていないと感じます。「交流を支える人材の発掘・活用や団体のネットワークづくりを支援するとともに情報交換の機会を提供します。」という表現がよいのではないのでしょうか。
- ・ また、これは非常に重要なことなので、アの位置に記載すべきだと思います。

(事務局)

- ・ 文章が練れていないとのご指摘はその通りだと思います。
- ・ 順番も冒頭に置くべきかも知れません。再考いたします。

(小野間委員)

- ・ (3) ③イに「ノンステップバスの導入の助成」とありますが、これは12頁の「(2) ユニバーサルデザインのまちづくり」の方に位置づけるのが適切ではないのでしょうか。
- ・ (3) ③は「公共交通の機能強化」ですから、事業例の「公共車両優先システム」に対応する施策が入るべきだと思うのですが。

(事務局)

- ・ ノンステップバスについては、1つの事業ですが3つの政策目標に関連しています。
- ・ まず、集客面で、他都市でノンステップバスが普及する中、高齢者の観光客も増えていきますので、横須賀市でも充実する必要があります。
- ・ ご指摘の通り、12頁「4 健康でやさしい心のふれあうまち」のユニバーサルデザインでは、誰もが社会参加できる機会づくりにおいて、移動手段としてノンステップバスの有益性を挙げることもできます。
- ・ 5でも、19頁の「④ 道路・交通環境の整備」に位置づけられています。
- ・ 先ほどの公園やノンステップバス、車座会議など4つか5つ再掲関係がある項目があります。再掲の考え方を整理したいと思います。

(小野間委員)

- ・ ノンステップバスは「ユニバーサルデザインのまちづくり」の目玉になる事業だと思いますので、メインは12頁の方だと思います。

(室町副座長)

- ・ 3頁(3) ③アで「市民の快適な通勤・通学を確保するため、鉄道輸送力の一層の増強」とありますが、鉄道だけではなくバス・自転車も入るのではないのでしょうか。また、「快適な通勤・通学」だけでなく、生活全般の足を確保するといった表現の方がよいと思います。

(事務局)

- ・ 大柱「いきいきとした交流が広がるまち」の「(3) 陸と海に広がる総合的なネット

ワークづくり」の中に位置するので、「市民の快適な通勤・通学」として「市民」に限定しているのはおかしいと思います。

- 公共交通と言えば鉄道とバスで、自転車という発想はありませんでした。書きぶりについて具体的にご提案いただけるとありがたいのですが。

(室町副座長)

- 細かく書けないのであれば、「公共交通など」として車以外であることを暗に示してはどうでしょう。

(事務局)

- 公共交通だと自転車は入らないと思いますが。

(室町副座長)

- そうですね。
- 車以外の、と記載できないなら表現を工夫する必要がありますね。

(伊藤委員)

- シャトルバスの整備を入れ込めないでしょうか。京急の駅、三笠、商工会議所のある平成町の辺りを周回するシャトルバスのようなものはどうでしょう。
- 横浜市や草津温泉など主要観光地ではワンコインバスが導入されています。横須賀学院高校の学生や市民も乗るかも知れませんが、横須賀駅と京急の駅を結べば観光客も乗るかも知れません。費用対効果の面もあると思うので、参考意見としてください。

(事務局)

- 狭いエリアの観光周遊としては1 (1) ①でワンコインバス等が検討されていますが、ご指摘は市民の足としてのご提案だと思います。
- コミュニティバスはどうでしょうか。衣笠駅からしょうぶ園に向かうコミュニティバスがあります。また、最近住民からの要望で、浦賀駅と少しはなれた団地を結ぶコミュニティバスも運行しています。このようなバスのイメージでよいのでしょうか。

(伊藤委員)

- はい。

(事務局)

- 先ほど(3)「③ 公共交通の機能強化」にノンステップバスを位置づけることに対してご意見をいただきましたし、そこにコミュニティバスを入れられるとよいかも知れません。
- ただ、事業者との関係もあり、案はあってもなかなか進まないのが実情なので、盛り込むには勇気がいるのだと思います。部局としては地域の要望を取り入れて事業者と検討しているようですし、考えたいと思います。

(高瀬委員)

- 同じく公共交通に関して、③アだけ「関係機関に要請します」となっています。「関係機関と連携した取組みを推進します」とした方がよいと思います。

(永田委員)

- 確かに、京急久里浜より先の複線化などは、用地の確保など市と連携した取組みが必要ですね。
- 東京港や横浜港に直接大型船が入らず、韓国やシンガポールを經由して小型船で地方に貨物を降ろし、トラックや鉄道で都心に輸送するケースが増えているようです。横須賀港の機能の割に入荷が少ないようなので、東京港や横浜港の代わりに横須賀港を活用すれば、地方から都心へ輸送するより CO₂ も少なくて済みます。港湾機能の強化や活性化という観点から検討していただきたいと思います。

(事務局)

- モーダルシフトのご提案だと思います。東京湾では久里浜から先が速度制限されるので、久里浜港で荷物を降ろせばより早く首都圏に貨物を輸送できるという優位性があります。(3)④「ア 物流の増加を図るため、東京湾湾口部に位置する特性を活用し、港湾機能の強化と再編を推進します。」がそれに該当します。
- 今の基本構想、現行の基本計画ではテクノスーパーライナーの構想がありましたが、上手くいきませんでした。その代わり、大分と久里浜を結ぶ大型高速フェリーの定期便シャトル・ハイウェイ・ラインが就航しました。燃料費の高騰により3～4年で事業停止となりましたが、九州や東北と久里浜港を結ぶ貨物輸送の可能性はあるようですので、その辺りも考慮しての施策表現にしたつもりです。

(室町副座長)

- 「④ 港湾機能の強化と再編の推進」は一般市民にわかりにくいのではないのでしょうか。この「ポートセールス」も人流と物流どちらを対象にしているのかわかりません。

(事務局)

- 「ポートセールス」は脚注による説明が必要だと思います。客船・貨物両方を対象としているので、解説の中で説明したいと思います。
- モーダルシフトの考え方はわかりにくいので、施策にどこまで書き込むか港湾部と相談します。

(小野間委員)

- 「④ 港湾機能の強化と再編の推進」の「再編」は何の再編でしょうか。複数ある港を再編するというイメージを持つのですが。

(事務局)

- 長浦に自衛隊のバースがあるので、長瀬の自衛隊の貯油場をそちらに移転・集約して、

通常の港湾に戻すことを想定し、自衛隊と協定を結び実行に向かっていきます。ここでは、長瀬の港湾機能の再編を想定しています。

- ・ 文字の説明だけでは市民に伝えきれないのが悩みの種です。

(室町副座長)

- ・ 港湾に関しては、もう少しフレンドリーな表現が必要だと思います。
- ・ 時間の関係もありますので、本日の審議はここまでにしたいと思います。
- ・ 次は、第6回総合計画審議会の予定について説明をお願いします。

(事務局)

- ・ 明日は、「第5章 まちづくりの推進姿勢」を中心にご議論いただきたいと思います。
- ・ 第4章の「1 いきいきとした交流が広がるまち」についても、本日ご発言いただけなかった点があれば、明日ご意見をいただきたいと思います。
- ・ 両日のご意見の取り扱いは、明日改めて説明いたします。

(室町副座長)

- ・ 明日ご欠席の方はいらっしゃいますか。(なし)
- ・ では、その他について説明をお願いします。

3. その他

(事務局)

- ・ 参考資料について説明
- ・ 明日の開催時間、場所、使用資料は本日と同じです。また、7月から9月の間に3回の審議会を開催する予定です。日程については、座長・副座長と近日中に調整後に、委員の皆様にも調整させていただきます。なお、8月の座長・副座長会議には、その他の委員の皆様は出席していただく必要がないため、会議出席の回数は2回となる予定です。本日の議事録については、明日の分とあわせて確認いただく予定です。

(室町副座長)

- ・ 本日はこれで会議を終了します。ありがとうございました。

(以上)